

「失敗に学ぶ」 - 再発防止と未然防止 -

作成者：道畑正岐

講演会詳細

日時：2008年1月23日 13:00 ~ 16:15

場所：機械系MI棟311講義室

講演概要

企画者： 道畑 正岐 (大阪大学 大学院工学研究科
機械工学専攻 博士後期課程1年)

講演者： 濱口 哲也 教授 (東京大学大学院工学研究科)

講演タイトル： 「失敗に学ぶ」再発防止と未然防止

講演概要： 講演は大きく4章構成となっており、プロローグ、問題提起(今日本で何が起きているか)、失敗学のすすめ、まとめであった。プロローグでは、失敗は成功のもと、失敗学の誕生、失敗学の趣旨、活用できる知識へなどについてお話しされており、次に、問題提起として「今、日本で何が起きているか」について述べられていた。ここでは、産業のS字曲線、マニュアル化の弊害、組織分業の建前と現実、偽リーダと真のリーダ、実行不能なマニュアル・形骸化についてであった。これらをふまえて、失敗学のすすめとして、失敗学の話に移る。ここでは、失敗の必要性、失敗を活かす方法、失敗原因の階層性、失敗の必然性、失敗知識の伝達、失敗を活かす工夫を主なトピックとしていた。最後に、まとめとして、教訓的に、「失敗するとしたらどんな可能性があるかを全員が考えて行動せよ」について述べられた後、対策はフルブーフとフェイルセーフであるとのことであった。



講演者： 金子 真 教授 (大阪大学大学院工学研究科)

講演タイトル： ゴキブリの触覚に学ぶ触覚センサーについて

講演概要： ゴキブリの触覚が非常に優れたセンサであり、それを応用する、いわゆる「生物模倣」による触覚センサの開発についての講演であった。剛体棒では、センシングできないものでも、弾性的な繊維であれば高精度に触覚センサとして働くことが出来る。最後は、このセンサを用いて、実際に実用化まで開発したというストーリーであった。

講演者： 大嶋 健司 助教 (大阪大学大学院工学研究科)

講演タイトル： 失敗はツーアウトまで

講演概要： まず、コマツ共同講座の紹介の後、大嶋先生が実際に体験された失敗体験談を紹介していただいた。油圧ポンプの実験時に、油圧のバルブを閉め忘れたため大惨事となった。そこから得られた教訓と、失敗は2回までであること。1度目は必ず起る失敗、2回目が始まると調査をし、2度と失敗を犯してはならない。

講演会準備

講演会準備： テーマの決定、講演者へのアポイントメント、日程調整、部屋の確保

広報活動： 機械系メーリングリストへのメール、工学研究科ブログ“阪大の散歩道”への投稿、
広報用ポスターの作成 (藤田研究室MI 高畑くんの協力)

講演会を終えた感想／反省点

今回、初めて講演会の企画を行いました。反省点としては、講演者の方の控え室の用意が出来ていなかったり、講演の部屋の下調べが出来れおらず、準備に少し手間取ったこと。つまりホスピタリティが欠如していました。また、部屋の確保を考えずに講演日の日程を決定してしまうというミスがありました。一方の良かった点として、聴講者の想定人数は30人でしたが、結果として32の方が聴講してくれました。また、アンケートにもありますが、参加して下さった方に非常に満足してもらえたことです。

私自身、講演会の企画がはじめてということもあり、学ぶべきところが多く良い経験になりました。先生方を始め、研究室の後輩や、ポスター作成に協力してくれた高畑くん、また聴講にきて下さった方に感謝します。

